

目的：住宅建築にはリフォームによる部分も多い。これに着目して古家を取り壊して処理する現場について、近隣公害等について考えるとともに、廃材がいかに処理され、現行法規上での判定を可能な部分について検討するのを目的とする。

方法：従来リフォームを行う場合、発注者はその現場から排出される廃棄物がどのように処理されるかについては、ほとんど関心はなかった。そのため解体工事や運搬のさいに起こる公害、不法投棄という問題が出る。本報ではいくつかの解体現場で処理方法を調べるとともに、現場周辺での騒音と粉じんを測定して環境問題を考える。排出物は混合廃棄物であることが多く、処理方法は個々で異なる。そこで建築廃棄物を分類し、特性と処理法について考察した。

結果：騒音レベルでは時間的变化は見られず、たえず一定した機械音が主因で、建物を崩す音はそれほど周辺に影響していなかった。粉じんは晴天時に相対濃度が高い。当然、晴天時の散水は行っている。作業開始直後とそれ以後の作業が広範囲に及ぶときとは、レンジに大差を生じた。解体現場では粉じん濃度が高く、人体への呼吸による吸い込みが懸念された。事前に周辺住家へ注意をすることはエチケットである。作業者は長時間作業現場に在ることを要するため、マスクや眼鏡でできるだけ保護をし、影響を少なくすることが望ましい。また、環境行政により出された廃材処理等の現状データをつぶさに比較し考察して対策を考えた。